

# JR (国鉄) 琴似駅の歴史



(写真左下) 幌内鉄道 (琴似駅近辺) を走るSL/ (S30頃) /吉川氏提供

(写真中央) 国鉄琴似駅踏切。奥には森永製菓工場の煙突が見える (S30頃) /吉川氏提供

明治13年 (1880年) に手宮 (小樽市) と札幌をつなぐ幌内鉄道が開通しましたが、当時は銭函から札幌までに駅は無く、琴似の人は利用できませんでした。そこで、明治15年 (1882年) に琴似村・発寒村より嘆願書が出され、琴似に簡易停車場 (フラッグステーション (※)) が設置されることになりました。これが琴似駅の始まりとなります。

※簡易停車場 (フラッグステーション) : 列車は通過するが、乗車する人や荷物がある時に機関士への合図として赤旗 (フラッグ) を立て、その時のみ列車が停車する鉄道駅のこと。



(写真左) 国鉄琴似駅駅舎 (S54)、(写真中央) 高架化前の琴似駅踏切/区役所撮影

(写真右) 高架後の琴似駅駅舎 (H1) /区役所撮影

昭和30年 (1955年) に琴似町と札幌市が合併したころから、琴似は急速に宅地化が進みました。結果、琴似駅を発着する列車の本数も増えることとなり、琴似本通は踏切で長時間遮断され、「開かずの踏切」と呼ばれるようになりました。「開かずの踏切」は昭和63年に琴似駅が高架化されるまで続きました。